

### \*暗室用品 18点収蔵

写真乾板の製造がなくなり、写真フィルムも近いうちになくることが予想される時代になった。天文観測は眼視の時代から写真乾板の時代になり飛躍的に進歩した。写真乾板では露出時間を長くすることによって天体からの光りを積分することが出来、目では見えない暗い天体を撮影できたからである。しかし写真乾板の量子効率はせいぜい1%程度であり、量子効率が90%近いCCDの出現によって写真乾板は駆逐されてしまった。

写真乾板の時代には天文台には必ず暗室があり、天文台で働く者はいっばしの写真技術者であった。しかし、CCDの時代に移り天文台にあった湿式の暗室は他の用途の部屋に改造され、国立天文台の暗室は消えて行った。その暗室を使っていた時代の遺物である暗室用品を収蔵した。現在、国立天文台三鷹キャンパスには太陽塔望遠鏡室（いわゆるアインシュタイン塔）に形ばかりの暗室が2つ残っている。

今回収蔵した暗室用品は、昔、測光部にいた宮下暁彦氏が定年を迎えた2009年3月に氏から筆者に渡されたものであった。引き受けたままアーカイブ室新聞の記事にしていないことに気がついた。今回収蔵したものは以下の18点である。

- 1) 35mmフィルム密着反転具（ネガフィルムからポジフィルム製作に使った）（写真1）



写真1 35mmフィルム密着反転具

- 2) Nikon35mmフィルムマガジンケース2個（なぜか中身がない）
- 3) 上皿天秤（重り付き）、この種の天秤は重りが残っていない場合が多い。（写真2）



写真2 上皿天秤、右下は重り

- 4) Nikon35mm フィルムマガジン MZ-1 (ケース付き) 1個
- 5) 250 コマ用 Nikon 35mm フィルムマガジン MZ-1 (ケース付き) 2個(写真3)



写真3 250コマNikon35mm フィルムマガジン (フィルムが入ったまま)

- 6) 雑金具の入ったフィルム缶
- 7) コンデンサーレンズ (平凸) 1枚 (写真4)
- 8) 四角のコンデンサーレンズ1式(写真5)



写真4 平凸コンデンサーレンズ 写真5 四角のコンデンサーレンズ

- 9) 35mm フィルム 3 ロール用現像タンク 1個(写真6)



写真6 35mm フィルム 3 ロール用現像タンク (フィルムリール、攪拌用心棒付き)

1 0) FUJINON-EP 引伸ばしレンズ 1:3.5/50 (ケース付き) 2 個 (写真 7)



写真 7 FUJINON-EP 引伸ばしレンズ 1:3.5/50 (ケース付き)

1 1) FUJINON-E 引伸ばしレンズ 1:3.5 (ケース付き) 1 個

1 2) Hexar レンズ 1:4.5 50mm (写真 8)

1 3) Lucky レンズ 1:3.5 7.5cm (写真 9)



写真 8 Hexar レンズ 1:4.5 50mm



写真 9 Lucky レンズ 1:3.5 7.5cm

1 4) 3 ロール現像タンク攪拌心棒

1 5) 6x6、6x7 フィルム用現像ベルト (写真 10)



写真 10 6x6、6x7 フィルム用現像ベルト

1 6) LUCKY ENLARGEING METER (引伸ばし露出計) (写真 11)



写真 11 LUCKY ENLARGEING METER (引伸ばし露出計)

1 7) ハンザ原版挟硝子 (引伸ばし原版挟硝子) 12 枚 (写真 12)



写真 12 ハンザ原版挟硝子 (引伸ばし原版挟硝子)

1 8) 密着焼き付け装置 (キャビネ版用) (写真 13)



写真 13 密着焼き付け装置 (キャビネ版用)

写真 14 は、密着焼き付け装置の電球を見たところ



写真 14 密着焼き付け器の中

これらアーカイブ室新聞の記事にお気づきのことがあれば、編集者中桐にご連絡いただければ幸いです。中桐のメールアドレスは、[arcnaoj@pub.mtk.nao.ac.jp](mailto:arcnaoj@pub.mtk.nao.ac.jp)